Career
Design
Support
Magazine

# R STYLE

キャリアデザイン応援マガジン
麗澤瑞浪中学・高等学校 アール・スタイル

2016
AUTUMN
Vol.2

# 土地を活かし豊かに生きる ライフスタイルの提案こそ 私に与えられた使命

## 宮地浩輔

1986年生まれ。岐阜県瑞浪市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。平成18年東京農業大学造園学科入学。大学卒業後は造園を学ぶためにドイツへ。現在は、瑞浪市の生花店「四季彩」で働く。中学・高校時代は硬式テニスに打ち込み、全国大会にも出場。

### 自己紹介を兼ねて

私の家は、瑞浪市一色町で生花店を経営しています。切花、鉢花、花苗、山野草、植木鉢、雑貨などを取り扱っています。花材にこだわり、山野草のアレンジなども手掛け、おしゃれに花を贈りたいというお客様のニーズにお応えできるように仕事をしています。また、二〇一〇年四月より、父の実家である瑞浪市日吉町の荒れた山林に手を入れて、「ゆずり葉の木」と名付けた庭づくりをスタートさせました。今のところ、花材を生産するフィールドでもあるため、一般公開はしておりませんが、常連のお客様への感謝の気持ちを込めて、年に数回のオープンデーを開催しています。また、庭のメンテナンスの仕方や植物の選び方など、庭づくりについて教えてほしいというお客様の要望にお応えして、春夏秋冬の年四回、ゆずり葉の木をフィールドにして一年を通した庭との関わり方を学ぶ講座を開催しています。

### 文化の継承とライフスタイルの発信

私の祖母は、庭にある草花を活けて、玄関先に飾っていました。しかし、私たちの世代では、自然や植物に触れる機会が少なくなり、暮らし方が変わってきているように感じています。人は、自然との関わりを断って生きていくことはできません。生活の中で、花を活ける習慣があるかないか、これは心の豊かさ・余裕

2016年　きれいに整備された庭の様子

2010年　庭づくり開始当時の様子

にもつながっていくと思います。
ただ世代を超えて文化の継承が行われていなければ、どうしていいのかわからないのも当然です。私は花屋の仕事や庭づくりを通して、それらの文化を継承しつつ、生活の中に植物を取り入れる新しいライフスタイルの提案ができればと考えています。これは、私に与えられた生きる使命と感じています。

さまざまなワークショップを企画しています

## 今後のビジネス展開

今後は、花の小売だけではなく、時代の流れも読みながら、名古屋や大阪などの都市部をターゲットに、人々のニーズにも応えられるようなビジネス展開を考えています。私たちが育てた珍しい花材を市場に提供するのです。幸いにも私たちには広大な土地があります。都会ではこのような場所はなかなか持てません。生産フィールドを庭として整備することで、業者や消費者の方々に、花材の魅力や活かし方を直接提案することもできると思います。生活の拠点は瑞浪ですが、名古屋に近い東濃地区の地の利を活かして、新しいビジネス展開も考えています。生産者の僕らもいい、花を飾る人もいい、都会の花屋さんもいいの三方よしを目指しています。

名古屋の市場に出荷する花材

## 大学卒業後、ドイツ留学へ

私は以前より、環境先進国のドイツに憧れがあり、一度は行ってみたいと思っていました。とは言え、私には何のつてもありません。そこで私が利用したのは、JAEC（国際農業者交流協会）が行っているヨーロッパ農業研修プログラムです。現在は、ドイツで酪農、養豚、複合（耕畜連携農業）、鉢物、落葉果樹、野菜、造園などを学ぶことができますが、私が応募した当時は、造園はありませんでした。しかし、憧れのドイツで学ぶためならばと、野菜コースで応募しました。もちろん面接では、「造園学科を出ているのになんで野菜コースなの？」と質問されました。不合格を覚悟で、「実は造園や庭づくりの勉強がしたいけれど、ドイツに行く道がここにしかないと思い応募しました。」と素直な気持ちを面接で伝えました。その結果、なんと、野菜ではなく「造園」で合格発表がされたのです。後から聞いた話では、ドイツと日本の交流事業のため、ドイツの造園会社に勤務し、日本庭園について学びに来ていたドイツ人がいたそうです。その人を通じて造園会社の社長に話をしたところ、興味を示してくださり、受け入れ先の話がまとまったということでした。さらに、私を担当した面接官は、瑞浪市の隣の恵那市山岡町の出身。さまざまな偶然と不思議なご縁のおかげで、願いが叶ったのでした。ドイツでは、その社長宅で住み込みながら、一年間さまざまなことを学ば

社長と一緒に

お世話になった造園会社の方々

せてもらいました。

## ドイツで感じた真の豊かさ

ドイツでは、「何のために生きるのか」がはっきりしていると感じました。仕事は仕事、家庭は家庭、そしてその比重は圧倒的に家庭にあるのです。夏休みも一ヵ月くらい取れるし、それでも仕事も国もきちんとまわるシステムができあがっている。造園に携わる人たちも、どろどろの汚い格好で仕事をしているわけではなく、きちんとした作業着を着てサングラスも似合う、スーツを着ればかっこいい。若かった私には、大人としての理想の姿を社長に見せていただきました。家族を大事にするということをベースに生きていくことがどれだけ大切なのか、本当の豊かさとはここにあると見せていただいたこの経験が、私の人生観にとても大きな影響を与えたと思います。

## 自らの生き方を通して

私の庭づくりには、ビジネス以外の目的もあります。それは、この土地を父から引き継ぎ、次の世代に受け渡していくことです。代々受け継がれてきた田畑や森も、管理する人がいなければどんどん荒れていきます。土地に魅力や可能性を感じることができなければ、人が出ていくのは当然の結果です。私はこの地で生まれました。そしてこれからもこの地で生きていきます。だからこそ、この土地を活かして、植物たちの魅力を活かして、そこに暮らす人々が豊かに生きていく姿を、自らの生き方を通して発信していきたい。これも私の使命だと感じています。

また、これは私なりの解釈ですが、日本語で「家庭を育む」という言い方があります。家族が語らいながら健康に生きていくためには、「家」と「庭」は絶対に必要だと思うのです。今はどちらかというと日本は家だけが重視され、庭が疎かにされている。だから、さまざまな問題が出てきている、そのように感じることも多々あります。広大な庭を持つことは難しいにせよ、その一部分を持つ、一部の要素を取り入れることはできると思います。「庭」も大切にする提案をしていくこと、これも世の中を良くする一つの方法ではないでしょうか。

大切な家族（ゆずり葉の木にて）

## 部活を通して学んだこと

私は中学の頃から硬式テニスを始めました。高校進学後もテニスを続け、とても充実した時間を過ごしました。休みもなくテニスに打ち込み、がむしゃらにやり遂げた経験はとても大きく、今でも私の生活に活かされています。

高校二年生の全国選抜予選、私はダブルスのレギュラーとして試合に出場しました。ゲームカウント5－1、二回のマッチポイントを逃し、逆転負けをしました。そして、私のダブルス敗戦により、全国大会出場の機会を逃したのです。この大会は、中学から一緒にテニスを続けてきた仲間と全国に行ける最後のチャンスでした。しかし、それを僕がつぶしてしまいました。本当に悔しかったし、悲しかったです。そして仲間に本当に申し訳ない気持ちで一杯だったと記憶しています。試合後、仲間と号泣している時、顧問の先生が話をしてくださいました。「お前たちは、本当に一生懸命やってきたと思う。準備もしてきたと思う。でも同じくらい相手も練習してきているから、一生懸命にやったからといって結果が出ないことは、これからも人生の中で必ずある。だから心だけは絶対に腐らせるな。」この言葉だけは、今でも鮮明に覚えています。

この悔しい思いと先生の言葉を胸に、次があるからがんばろうとひたむきに練習に取り組みました。そして、高校三年生でのインターハイ予選。今度はシングルスで出場しました。そして今度は、私の試合でインターハイ出場を決めることができたのです。先生の言葉通り、心を腐らせずに辛い練習を乗り越え、全国大会への切符を手にすることができました。

全力で取り組んだテニス

麗澤瑞浪のテニス部での経験は、僕の人生において外すことはできません。顧問の先生がその場の勝ち負けだけにこだわるのではなく、常に長い人生を見据えた言葉を投げかけてくれたのが大きかったと感じています。ドイツにいる時の糧にもなりましたし、現在仕事をしていても、我慢強さや粘り強さにつながっていると思います。中学や高校時代に、何か一つのことに全力で取り組むことは、その後の人生においても大きな財産となることは間違いありません。

# 正義が貫ける仕事、だからこそ問われる人間性

## 伊東大幸

1985年生まれ。千葉県船橋市出身。麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。平成16年東北大学法学部入学。平成23年中央大学法科大学院修了後、司法試験に合格。平成24年より検察官として活躍。現在は、東京地方検察庁所属。

### 検察官の仕事とは

簡単に言うと、犯罪の捜査をして、裁判にかけるかどうかを決め、裁判をする仕事です。私たち検察官のもとには、警察が捜査して捕まえた被疑者が、証拠とともに送致されます。検察庁に送致された後も、警察と検察は協力して捜査をしています。検察官が必要だと思う証拠を、警察に依頼して集めてきてもらうことも多いです。よくテレビに出てくる特捜部のように、検察庁独自で捜査をして被疑者を逮捕することもあります。

裁判において、被告人を有罪にしようとする検察官と無罪を勝ち取ろうとする弁護士との対立構図をイメージされる方が多いのですが、私たち検察官の仕事は、有罪を勝ち取ることではなく、真実を明らかにすることです。何が真実かを明らかにするために捜査、裁判をしているのです。被疑者が犯人だと決めつけるのではなく、被疑者の話が真実かどうかや犯行現場で何があったのかを明らかにします。そして、被疑者が犯罪を行ったと確実にいえると判断した場合に、起訴し、裁判をしています。

### 検察官を志した理由は

中学二年生の時、国語の授業で新聞記事を切り抜いて、その内容についてスピーチするという課題がありました。どのような記事が面白いかなと思った時、その当時盛んに取り上げられていた、少年法改正の記事が目に留まりました。少年は罪を犯しても少年法に守られている、そういう話を読んで法律の力はすごいと感じ、そこから法律に興味が湧いて、法律を勉強したいと思いました。自分は結構な飽き性で、あれやりたい、これやりたいと興味が移り変わるのですが、法律の勉強だけは面白そうなので続けられると思いました。そこから法学部志望になりました。

私は、司法試験に合格するまでは弁護士を目指していました。実家は小規模な洋菓子店を営んでいます。自分の父親が経営者として働いている姿を見て、もっと法的な知識があった方が、うまくいくのではないかと感じたことがありました。このような会社を、法律の力でサポートする仕事がしたいと考えていました。

しかし、司法試験に合格した後、司法修習という、裁判所、検察庁、弁護士事務所を一通り経験する研修を通して考えが変わりました。犯罪が人の平穏な生活を最も理不尽に奪うという現実を目の当たりにしたのです。研修中に、殺人事件の被害者の御遺族と出会いました。「普通に仲良く暮らしていた家族の命が、ある日突然奪われ、そこから生活が一変してしまった。そんなことは決して許されることではない。」とその方は話してくださいました。私は、それまで、法律の力で小規模な会社を救うことを考えてきましたが、自分が検察官になることで、少しでも理不尽なこと、犯罪を減らすことができれば、社会全体の利益になると思いました。会社という規模ではなく、

もっと大きく世の中に貢献できるのではないかと思い、検察官になることを決めました。

## 仕事をするうえで大切にしていること

検察官の仕事は、とても責任が大きいです。相手の人生を左右する決断をするわけですから。逮捕、起訴されたらどれだけ人生が変わってしまうか、十分に理解しているつもりです。「これで本当にいいのか」という問いは絶えず自分にしています。検察官の数は、警察官と比べると非常に少ないです。一つの都道府県に十数人しかいないところも少なくありません。それに対して警察官は、数千人単位でいます。その分、各方面に対する検察官一人の判断の影響は大きいと思っています。大きな権限がある立場上、常に自分を律して行動しなければいけません。ですから、感謝する、思いやりを持つ、謙虚でいるなど、麗澤瑞浪で教わったことを振り返るようにしています。

また被疑者の取り調べは、まさに人間対人間のぶつかり合いです。被疑者が一番触れてほしくない部分に、検察官は触れにいきます。一番触れられたくない部分を、どうすれば心を開いて話してくれるのか、こういった部分で検察官の人間性が試されると思っています。相手の心を動かせず、心を開いてもらえないことも多く、まだまだ未熟だと思わされることばかりですが、そんな自分が自信をもって仕事ができているのは、麗澤瑞浪で培った価値観が自分を支えてくれているからです。だから麗澤瑞浪には本当に感謝しています。

## 中学時代を振り返って

中学時代は、とにかく一生懸命に野球をやっていた記憶があります。私は、野球が大好きで時間さえあれば野球をやっていたので、勉強が楽しいと思ったことはありませんでした。それでも最低限、学校から出される宿題などはやっていました。当時は、反抗期も重なってかなり生意気な生徒だったと思います。特にある英語の先生の時の授業態度は、ひどかったと思います。でもある日、その先生にまわりくどさなしにストレートに叱られました。叱られたその瞬間、不思議なことに、「この先生、良い先生だ」と思いました。授業はおろそかにしているが、最低限やるべきことをやっていて、成績も取っている、だからなかなか叱られない。そんなずるい生活をしていた私を、先生がストレートに叱ってくださったのがとても効きました。

また、中学二・三年の担任の先生が、いつも「君たちは可能性に満ちている」と言ってくださいました。「東大に行こうと思えばいけるんだ」などと、私たちの無限の可能性についていつも話をしてくださいました。その部分では、素直に「自分には可能性があるんだ」と思わせてもらいました。麗澤瑞浪での先生方との出会いは、私の人生に大きな影響を与えてくださいました。

大好きな野球に打ち込む日々

## 高校時代を振り返って

性格の問題だと思いますが、基本的に授業や勉強が楽しいと思うことは少なかったです。例えば「生物」、純粋に話

を聞いているだけでは面白いと思えませんでした。でも、自分自身の興味を高める一つの方法として、授業中の話の中から、わからないことを探すという作業をして、とにかく先生に質問をしていました。麗澤瑞浪の「生物」のカリキュラムは、本当にすごく良かったと思っています。当時は、受験までに、授業を受けるだけで生物の内容を繰り返しで三周は勉強できました。小テストや宿題もあったので、授業だけをしっかりとやっていれば、受験は絶対に大丈夫だと思っていました。他に覚えているのは英語です。英語はとにかく全力で予習をしていました。授業は、わからないところをつぶす作業で、わかっているところは確認する程度でした。

大学時代もそうでしたが、人の話を聞くだけのタイプの授業は基本退屈でした。本当におもしろくなかった。だからこそ、面白さを見い出そうと自分なりに努力をしてきました。目標がはっきりとしていて、自分の中でこうなりたい、できるようになりたいという気持ちがはっきりとしていたので、がんばれたのだと思います。ここが他の人と違うところかも知れません。

## 受験生へメッセージ

私は、第一志望の大学には合格できませんでした。前期試験の合格発表の日、自分の番号がなかった時は、全身に震えがきて、涙が止まらなくて、もうだめだ、第一志望じゃない後期試験なんてどうでもいいと思いました。そんな状態の時、中学からの親友がずっとそばにいてくれました。心が折れてしまいあきらめかけている自分に、何度も「最後だから、これまでがんばってきたのを出さないのはおかしい」と声をかけてくれました。親友に出し切ってこいと言われたことで、「出し切ったろ！」と気持ちを切り替えることができました。そのおかげで、後期試験で東北大学に合格することができたのです。だから、受験生の皆さんにも、是非、最後まで諦めずに力を出し切ってほしいと思っています。

また、私には、思い通りにいかない時、苦しい時に思い出すことがあります。それは高校生の時に大好きだった野球をやめたことです。現在でも中途半端に野球をやめたことが心に引っかかっています。野球をやめたことが心に引っかかっています。何かを途中であきらめること、これだけは二度としたくない。以前は、苦しいことから逃げる癖があったのですが、その時は「お前はあの時と同じ思いをしたいのか。」と思うようにしています。さらに、親友、同級生、先生の顔が浮かんで、「一回決めたんだから。まだやれるんじゃないか。」と想像の世界ですが後押しをしてくれます。苦しい時にいつもそばにいてくれた仲間の存在、これは本当に大きいですよね。

もし挫折を経験してしまったら、「折れたままの自分で耐えられるのか」と自分に問うて欲しい。絶対虚しいって思うはずですよね。折れたままの自分でいられるのか、もう一回その経験をするのか。こう考えれば絶対がんばれるはずです。応援しています。

親友の谷渕君は麗澤瑞浪で教員をしています

# 自分を磨きたい！成長したい！その思いが私を決心させた

## 松林　遼

1997年生まれ。静岡県御前崎市出身。麗澤瑞浪高等学校卒業。平成28年浜松医科大学医学部看護学科に進学。高校時代は副級長や女子寮の寮長などリーダーとしても活躍。

### 麗澤瑞浪での寮生活を選択

私の家族は、母も兄も姉も、麗澤瑞浪の卒業生です。だからといって、私も当たり前のように麗澤瑞浪に進学したわけではありません。進学を決める際には、親元を離れて寮に入るということに不安もあり、とても迷いました。しかし、大きく三つの理由で麗澤瑞浪での寮生活を決意しました。

一つ目は、母をうらやましく思ったことです。麗澤瑞浪の卒業生である母は、兄や姉の保護者学級などに出かけていくのを、とても楽しみにしていました。それは、父親、母親になった同級生に会えるからでした。定期的に行っている同窓会に出かけていく姿や、毎年の年賀状のやり取りを見ていても、麗澤瑞浪の卒業生の絆の深さを実感できました。

二つ目は、先に麗澤瑞浪に進学していた兄や姉が、とても楽しそうに生活していたことです。私自身も夏休みに行われる体験入学に参加して、すごく楽しかったことが進学の決め手となりました。

三つ目は、中学時代に挫折を経験したことです。挫折を経験したことが悔しく、地元の高校に進学するよりも麗澤瑞浪の寮生活で自分を磨き、より成長したいと強く思いました。

### 入寮当時の思い出

二歳年上の姉も寮生活をしていたので、何かあると姉の部屋を訪ねては話を聞いてもらっていました。頻繁に姉の部屋を訪ねていたので、周囲からは「遼ちゃんホームシックじゃない？大丈夫？」と心配されていたようですが、おかげさまでホームシックにはなりませんでした。また、家では見ることができない姉の姿を見ることができました。姉は少し天然だと思っていたのですが、寮長を任されていたり、後輩からすごく慕われていたり、寮のことを一生懸命に考えて悩む姿を見て、「お姉ちゃんってすごいんだ」と認識することができました。とにかく、姉の存在はとても大きかったです。

入寮当初は先輩に対しての礼儀や言葉遣い、高校一年生として任された仕事をこなすことに苦労したこともありました。しかし、同級生の子たちと「みんなで頑張ろうね」と言いながら楽しく生活ができていたので、この学校を選んで良かったとすぐに思うことができました。

### 一番充実した時間

高校一年生、二年生の頃も充実した寮生活を送ることができましたが、やはり最後の一年間は本当に濃い時間でした。それは、寮長を経験したことによります。私は高校二年生の時の副寮長をとても尊敬していました。その先輩は常に周りが見えていて、周囲への気づかいのできる人でした。寮長のこともしっかりと立てながら、寮長が判断に困った時やここぞという時には「ビシッ！」と言えるそんな姿に、私もあの先輩のような寮役員になりたいと思っていました。しかし、実際に私が寮長に選ばれてからは、理想通

りにはいきませんでした。日々、ものすごく「気を張っていた」と思います。もっとしっかりしなきゃと思っていましたし、嫌われてもいいし、好かれなくてもいいから「しっかりしよう」と思っていました。

苦労したことはたくさんありますが、その中でも一緒に寮役員として寮をまとめる副寮長と、目指しているものの違いを感じた時が一番しんどい思いをしたのをよく覚えています。副寮長とは、一年生の時から寮も部活も一緒で、とても仲の良い子だったので、寮役員を一緒にできるとわかった時はすごく嬉しかったです。しかし、寮運営をする段階では、それぞれの理想とする目標の違いが大きく、難しさを感じました。寮役員同士の関係がぎくしゃくしていては、寮もまとまりません。その時、副寮長に「今の寮の雰囲気は嫌だ」と素直に伝えたところ、副寮長も同じことを考えていました。私はその話し合いを通じて初めて、副寮長の気持ちを知ることができました。思いをぶつけあった後は、寮の雰囲気も良くなり、私たちの思いに同級生が協力してくれて、みんなで良い寮を作ることができました。今思い返せば、原因は自分の性格にあったのかもしれません。私は、自分で全部やりたいタイプだったので、人に任せるのが苦手なんだと再認識することもできました。

私を支えた家族からの手紙

## 寮生活を支えた家族の絆

麗澤瑞浪の寮生は週に一度、親に葉書を書きます。学校での出来事やがんばっていることを報告するのですが、今思い返すととても支えになっていたと感じます。私が書くだけでなく、母親からもたくさんの葉書が届きました。入寮当初は、母から葉書がくるたびに泣いていました。私の誕生日には、家族全員からの愛のこもったメッセージ付きの葉書が届き、本当に嬉しかったのを覚えています。高校三年生の途中で、母親からの葉書が百枚を超えました。電話で「葉書が百枚を超えたよ、ありがとう」と母に伝えたら、「遼からの葉書も百枚を超えたんだよ」と言ってもらい、とても心が温かくなりました。

現在私は、大学進学の関係で一人暮らしをしているのですが、葉書は一緒に持ってきています。今でも時々読み返すことがあります。その当時はあまり何とも思わなかったけれど、大学生になった今読み返すと、母の真意が読み取れたり、伝えたかったことを素直に理解できたりすることも多いです。仕事で忙しいにも関わらず、ずっと書き続けてくれていた母親の偉大さに感謝の気持ちでいっぱいです。

寮の仲間たちと

## 受験生へメッセージ

自分の原動力となったものはやっぱり夢の存在です。私には助産師になりたいという夢があります。母が助産師をしていて、その姿を見てきたので、ずっと憧れを抱いています。小学校の頃から一筋に抱いてきた夢です。母のことは人として、女性として、母親として本当に尊敬しています。その夢を叶えるために浜松医科大学に進学を決めました。一筋に描いていた夢だからこそ、受験勉強もがんばることができました。辛い時、苦しい時も、担任の先生からかけてもらった「夢のためならがんばれるでしょ！」という言葉、とても印象的で私をやる気にさせてくれました。麗澤瑞浪の先生方は、本当に私たちのために一生懸命指導してくださいました。その先生方を喜ばせるためにも夢を現実のものとして、恩返しができればいいなと思っています。

現在、二つ年上の姉も、金沢大学で助産師になるための勉強をしています。母・姉・私の家族三人が集まると、みんなで力を合わせて助産院を開きたいねと話しています。とても楽しい時間です。大学に進んだ今でも、次なる夢に向かってがんばっています。皆さん、将来の夢をきちんと考えていますか。夢はがんばる原動力です！

# 麗澤瑞浪に学んで

No. 002

## 上坂紘世

麗澤瑞浪中学・高等学校卒業。兵庫県三田市出身、親元を離れて本校で六年間の寮生活を送る。本校在校中は、太鼓部員として活躍。管理栄養士になることを志し、平成二十八年四月より、大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類栄養療法学専攻へ進学。

「ありがとう」と言えば、「どういたしまして」ではなく、もう一度「ありがとう」が返ってくるこの学校で六年間を過ごし、私が学んだことは、やはり「感謝」をすることであろう。

感謝してくれたことに感謝をする。今でこそ自然にどういたしましての代わりにありがとうが口に出るようになったが、入学した頃は絶対に慣れることはないだろうと思っていた。しかし、普段よりも多くの感謝の言葉を口にするうちに気がついたことがある。それは感謝すべきことの多さ、そして今まで自分を支えてくれていた人の多さである。一度、一日に何回のありがとうを言うのか数えてみたら百を超えたことがある。落とし物を拾ってもらうなどの普段の感謝の気持ちから部活の大会の結果をまるで自分のことのように喜んでくれた人へ。自分がどれだけ大変な思いをしていても、私のためを思い夜遅くまで指導をしてくれた人へ。そして、私の夢を分かってくれた人へ。感謝すべき人・物を数えてみると、百を超えるのも納得できた。このことはつまり、今まで自分を支えてくれていた人の数もきっとこれ以上になることも教えてくれた。

高校三年生になってからの道徳の授業で「ありがたさ」についての授業を受けた。そこでも感謝すべきことの多さを学んだが、最も心に残ったことは、「人は皆それぞれの役割を持ち、全てが支え合って生きている。これは良いことだけではなく、悪いと思えるようなことも。だから全てのことに感謝をしなければならない。」という一文だ。その時初めて私は、自分にとって直接利になる物にしか感謝してこなかったことに気付いた。悪いと思えるようなこと、自分にとって困難となるようなことが起こっても、ただ不満に思い、弱音を吐くだけでなく、これは自分の運命をたてかえる良い機会であると思い、今までの自分の行動に悪い所が本当になかったのかを思い返すことが大切だということを学んだ。

この学校はたくさんの有り難さを教えてくれた。親が近くにいない。自分のことは自分でしなければならない。以前まで当たり前だったことが全て、有り難いことだと分かった時に初めて、今まで自分がどれほど多くのものに支えられてきたのかに気付くことができた。そして、何事にも感謝することも学んだ。家族、先生、友人、支えてくれた全ての人、そして感謝を教えてくれたこの学校に感謝をしてこれからも生きていきたい。

# 学校図書館司書おすすめ本コーナー

## ～入口かんたん！奥が深い！！　イチ押し本の紹介～

### 小６におすすめ

#### モノの数え方えほん

**町田健(監修)／日本図書センター**

「１頭と１匹」、「１人と１名」の違いから、「天使と悪魔」、「ジャガイモとサツマイモ」の数え方まで！
知っているようで意外と知らない、モノの数え方!!

#### 二番目の悪者

**林木林(作)庄野ナホコ(絵)／小さい書房**

金のライオンは王になりたかった。銀のライオンは王にふさわしいと言われた。金のライオンは銀のライオンをねたんで、白を黒にぬりかえた噂を流し始める。悪いのはだれ……。
自分の行いを思わず振り返る。

#### 生きものたちのつくる巣109

**鈴木まもる／エクスナレッジ**

家をつくるのは人間だけじゃない！にせの出入り口がある巣、キノコが栽培できる巣!?
安全・安心でとっても快適な生きものたちの家。生きものたちの知恵に感動！

#### ユリシーズ・ムーアと時の扉 (ユリシーズ・ムーア1)

**金原瑞人(訳)／学研パブリッシング**

ある古い洋館に引っ越ししてきたふたごの兄妹。２人は、友人とともに、洋館の前の持ち主が残した暗号を見つける。たくさんの書物、残された暗号、隠された部屋、そして。
先が読めない急展開！時空を超えた冒険なぞ解きシリーズ！

### 中３におすすめ

#### 翻訳できない世界のことば

**エラ・フランシス・サンダース／創元社**

「水面にうつった道のように見える月明かり」、「トナカイが休憩なしで、疲れず移動できる距離」世界にはこれを一言で表す言語が存在する！
世界のことばのすばらしさを感じる。

#### 図解!!生き残るためのやりかた大百科

**Joseph Pred ／パイインターナショナル**

凍りついた舌をとかす方法、サメと対決する方法、犬への人工呼吸方法など、まさかの状況に役立つ……はず！
面白半分で見始めたのに、「これは覚えておこう」と思ってしまうサバイバル本。

#### 好奇心を“天職”に変える 空想教室

**植松努／サンクチュアリ出版**

小さな町工場から自家製ロケットを打ち上げ、宇宙開発の常識を逆転！ 誰もが疑わなかった常識を、次々と塗り替えていく。「僕らは知恵と工夫で世界を救う」
若いみんなに伝えたい！“ どんな夢も実現させる方法 ”

#### 木曜日は曲がりくねった先にある

**長江優子／講談社**

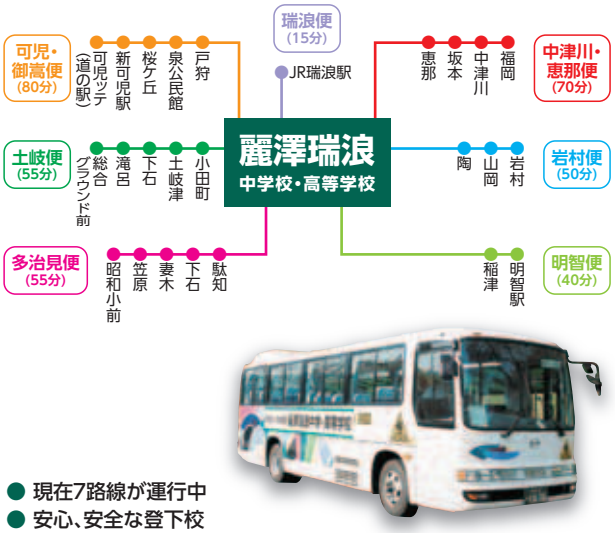
ミズキは中学受験に失敗し、中学生活を冬眠して過ごすと決意する。登校日、特別な感覚を持つカナトと再会する。２人は人との交わりや鉱物を通して、少しずつ気持ちに変化が生まれはじめ……。
勇気がもらえる、あたたかい物語。

麗澤瑞浪中学・高等学校の図書館は、３万冊を超える図書を備え、年間貸出冊数は 25,000 冊。岐阜県で最も利用されている学校図書館です。司書が旬の本を紹介したり、テーマ別に特集を組んで、「常に新しい空間」を演出しています。

## 交通のご案内

- 中央自動車道 瑞浪 I.C.から約15分
- JR中央本線 瑞浪駅からタクシーで10分

## 麗澤瑞浪スクールバス路線図




- 現在7路線が運行中
- 安心、安全な登下校


# 麗澤瑞浪中学・高等学校

〒509-6102 岐阜県瑞浪市稲津町萩原1661
TEL:0572-66-3111　FAX:0572-66-3100
http://www.mz.reitaku.jp

学校法人 廣池学園

□麗澤大学　TEL:04-7173-3601
□麗澤大学大学院　TEL:04-7173-3633
□麗澤中学・高等学校　TEL:04-7173-3700
□麗澤幼稚園　TEL:04-7173-3526